

月刊
monthly

[月刊 デイ]
http://daybook.jp/

VOL.185

5 2015
月号

DAY

新企画&現場で役立つ
レク情報など満載!

特集

ご利用者の生活機能に働きかける

個別機能訓練加算Ⅰ・Ⅱの
プログラム・書類例

好評連載

楽しみながら機能アップ! 口腔機能向上レク

中・重度の方も楽しめる
社会性を維持できるプログラム

デイの環境・ケアの工夫 アイデア紹介



別売 5月号
対応版

お役立ち
ツールCD

定価600円

(+税、送料別) 発売中

創作人形/石井美千子
(タイトル:お手伝い)

人間だもの

第2回 あなたはがん派？それとも認知症派？

日本では昔、死因の多くが結核でした。少し前は脳卒中でした。そして現代は3人に1人が「がん」で亡くなっており、今後はさらに認知症と老衰が急増します。近い将来、日本人の死因は大ざっぱに言えば、「がん」か「認知症」となるはずです。私は講演会でよく、「がんと認知症。もし選べるならば、どちらで死にたいですか？」と質問します。どこで聞いてもがんに軍配が上がります。多いときは、がんが9割を占めます。認知症はそれほど人気が無い。しかし私は逆です。認知症で死にたい。本当は長生きして老衰といきたいが、不摂生な男性にはまず無理です。だからせめて認知症を希望するのです。

そもそも男性の場合、平均して女性より7歳ほど短命ですから、なかなか認知症までたどりつけません。施設入所者の9割が女性です。男性はそこにたどりつく前に、がんや脳卒中や心筋梗塞で死に絶えます。そうした荒波を乗り越えた“エリート男性”だけが認知症になれるのです。

私は認知症になってデイサービスに行ったり、入浴介助をされたり、訪問入浴の恩恵に一度でも預かれるのが夢です。なぜなら日々、そうしたサービスを受けている男性が幸せそうに見えるからです。末期がんでは、介護施設に入ったり入浴サービスを受ける可能性はかなり低くなります。早い話が、人生

一度は、介護士さんにお世話をしてもらいたいのです。かまってほしいのです。日ごろ、人のお世話ばかりしているからこそ、自分もそのサービスを受けてみたいのです。

実は昨年、正月に、無理を言って患者さんが入ったあとの訪問入浴に入れてもらいました（笑）。想像以上に気持ち良かった。「もし長生きできたら、ここに入りたい」と強く思いました。体を洗ってくれた若い介護士さんに元気をもらいました。だから私は絶対に「認知症派」なのです。今、これを読んでくださっているあなたは、がん派？それとも認知症派？



長尾クリニック院長
長尾 和宏 ながお かずひろ

1984年東京医科大学卒業、大阪大学第二内科入局、1995年兵庫県尼崎市で開業、外来診療と在宅医療に従事
日本ホスピス在宅研究会理事、日本慢性期医療協会理事、日本尊厳死協会副理事長、関西国際大学客員教授、東京医科大学客員教授(高齢総合診療科)、「病院でも家でも満足して大往生する101のコツ」など著書多数